

1 近江八幡市平和祈念式



※写真提供 近江八幡市

開催概要 (平成23年度)

歳事名：近江八幡市平和祈念式 ※一般戦災死没者を含む
 会場：近江八幡市文化会館 大ホール
 (JR・近江鉄道 近江八幡駅 徒歩15分)
 日時：平成23年8月6日(土) ※例年8月上旬開催
 参加者数：約650人
 連絡先：近江八幡市 福祉子ども部 地域福祉課 0748-36-5508 (直通)

式次第 (平成23年度)

【第1部】平和祈念式

1. 開式の辞：近江八幡市平和祈念式実行委員会委員長
2. 黙とう
3. 式辞：近江八幡市長
4. 追悼の言葉：近江八幡市遺族会会長
5. 来賓あいさつ：滋賀県知事・滋賀県遺族会会長
6. 来賓紹介：滋賀県知事・滋賀県遺族会会長・滋賀県議会議員・近江八幡市議会議長
7. 献花：各種団体代表
8. 平和宣言：近江八幡市議会議長
9. 平和の折鶴献呈：市内小学生・中学生代表
10. 平和への誓い：市内中学生・高校生
(作文発表)
11. 平和への賛歌：近江八幡児童合唱団
12. 閉式の辞：近江八幡市連合自治会会長

【第2部】記念行事

特別講演『恒久平和を願って』 講師 前滋賀県知事・現滋賀県遺族会顧問 國松 善次氏

式辞 (平成23年度)

本日ここに、ご来賓の方々をはじめ、このように大勢の皆様をお迎えし、第2回近江八幡市平和祈念式を挙げるにあたりまして、8万2千市民を代表して、謹んで戦没者ならびにご参加の皆様へ式辞を申し上げます。

先の大戦が終わりを告げてから、66年の長い歳月が過ぎ去りました。あの激しい戦いのさなかに、祖国を思い、家族を案じつつ戦場に散り、あるいは戦後、遠い異郷の地で、無念にも最期を遂げられた方々に思いをはせるとき、尽きることのない深い悲しみが胸にこみ上げてまいります。

ここに、改めて戦没者の方々に哀悼の誠を捧げます。

戦後、私たちは焦土の中から立ち上がり、たゆまぬ努力を積み重ね、平和で豊かな社会を築いてまいりました。本市もその中であって、誰もが住みたくなる明るいまちづくりを推し進め、近江八幡に暮らし、歴史と文化に魅力と誇りが実感できる、個性豊かなまちづくりの実現と、市民が希望を持ち、安心して暮らすことができる、活力ある近江八幡市として、誇りがもてる「まち」に成長してまいりました。本市の将来像であります「自然の恵み、歴史と文化に根づく生業が広がり、起業する活力とすべての人々が支え合える、ぬくもり あふれたまち」の創造を目指し、市民の皆さんと、邁進して行く所存であります。

一方で、この実現は日本の安全と世界の恒久平和なくしては望み得ないものであります。今、私たちが享受しているこの平和と繁栄は、戦争により、心ならずも命を落とされた多くの方々の、尊い犠牲の上に成り立っていることを決して忘れてはなりません。真に平和な世界を実現するため、決して戦争を美化することなく、尊い生命を奪い、人々の生活やかけがえのない国土・自然を破壊する戦争の悲惨さや無益さを次の世代に正しく伝えていくことが、今の時代に生きる私たちに課せられた大きな社会的責務であると思う次第であります。

戦後66年が経ち、私たちの意識から戦争の悲惨さ、平和の尊さが次第に薄れていく傾向にあります。戦争の教訓を決して風化させることなく世界の恒久平和を、いかにすれば実現していけるかを市民皆で考える機会にしたいと考え、ここに第2回近江八幡市平和祈念式を開催するものであります。

この平和祈念式で私たち市民は、未来に向かい、二度と戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、平和で豊かな社会を築き、次の世代に引き継ぐため努力することを、ここにお誓い申し上げます。

この、平和祈念式の開催にあたり、今日までご尽力を頂きました実行委員会委員の皆様へ、厚くお礼を申し上げます。

終わりに、本日ご参加の皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げまして、式辞といたします。

平成23年 8月 6日
 近江八幡市長 富士谷 英正

2 湖南市平和祈念のつどい（戦没者追悼式・戦争体験講演会）



※写真提供 湖南市

開催概要（平成23年度）

歳事名：第7回 湖南市平和祈念のつどい（戦没者追悼式・戦争体験講演会） ※一般戦災死没者を含む
 会場：湖南市共同福祉施設（サンライフ甲西）
 （JR甲西駅 徒歩5分）
 日時：平成23年8月6日（土） ※例年8月の第1土曜日に開催
 参加者数：190人
 連絡先：湖南市健康福祉部 社会福祉課 0748-71-2327（直通）

式次第（平成23年度）

【第1部】戦没者追悼式

1. 開式のことは：司会者
2. 黙祷：（一同起立）
3. あいさつ：平和祈念のつどい実行委員長 中村武治
4. 式辞：湖南市長 谷畑 英吾
5. 来賓追悼の辞：衆議院議員、滋賀県議会議員、湖南市議会議長
6. 滋賀県知事メッセージ
および追悼電報の披露
7. 献花：実行委員長 湖南市遺族会会長、湖南市長、衆議院議員、滋賀県議会議員、湖南市議会議長、湖南市社会福祉協議会会長、湖南市傷痍軍人会甲西支部石部支部代表、湖南市区長会会長、湖南市民生委員児童委員協議会会長、遺族会代表（中学校校区）

【第2部】戦争体験講演会

8. 紹介：司会者
9. 次世代戦跡訪問事業「平和学習レポート」発表
10. 戦争体験講演会（十四歳の出陣）
11. 関連事業紹介：司会者
12. 閉会のことは：平和祈念のつどい実行委員会副委員長

式辞（平成23年度）

平成23年度 第7回湖南市平和祈念のつどい 追悼の辞

本日、ご遺族をはじめ関係者のご参列のもと「第7回湖南市平和祈念のつどい」が執り行われるにあたり謹んで追悼の誠を捧げます。

先の大戦が終りを告げてから今日まで66年の歳月が流れました。今年は満州事変から80年、太平洋戦争の開始から70年目にあたります。苦難に満ちた往時をしのぶとき、今なお悲痛の念が胸に迫り来るのを禁じ得ません。あの苛烈を極めた戦いの中で、多くの方々、祖国の安泰と家族の幸せを願いつつ、遠い異郷の地で尊い命をなくされました。ここに心から御冥福をお祈りします。

そして、現在私たちが享受している平和と繁栄が、祖国のために心ならずも命を落とされた戦没者の方々の犠牲の上に築かれていることを忘れないようにし、戦没者の方々に敬意と感謝の誠を捧げたいと思います。

戦後、日本は平和を国是として、残された人々の懸命の努力によって復興し、今日では、緑豊かな平和を願う美しい国に生まれ変わりました。我が国の復興にご尽力下さったご遺族の方々も今や高齢期を迎えておられることと思いますが、日々の営みが、平和で満たされたものであることを願ってやみません。

しかし、いまだに世界には、一部の核保有国により2万発を超える核爆弾が存在し、核兵器廃絶の実現は程遠い状況にあります。米国大統領は、核兵器を使用したことがある唯一の核保有国として、「米国には行動する道義的責任がある。」と、歴史的な演説を行いました。まだわずかに第一歩を踏み出しただけです。

その一方で、さきの大戦で官僚主義に陥り、組織を守るために情報を操作し、兵卒の人命を軽視した帝国軍隊と同じように、このたびの東日本大震災への対応でも、組織を守るために情報を操作し、人命を軽視したわが国は、過去の教訓を何一つ身につけていないことがわかりました。

この平和で豊かな今日においてこそ、私たちは過去を謙虚に振り返らなければなりません。戦争の悲惨さや、そこに幾多の尊い犠牲があったことを学び、多くの教訓を心に深く刻み、次の世代に正しく語り継ぎ、戦争がいかに悲惨で不幸なことであるかを一人ひとりが真剣に考え、恒久平和の確立に力を尽くしていくことが、今を生きる私たちに課せられた責務です。希望に満ちあふれ、心豊かに暮らせる湖南市の実現のため、全力を尽くしてまいりますことを、ここに改めてお誓い申し上げます。

結びに、戦没者の方々に対し、改めて深く哀悼の意を表し、戦没者御遺族の皆さまの今なおお変わりすることのない深い苦しみ、悲しみに思いを馳せるとともに、ご参列の皆さまの御平安を心からお祈りいたしまして、追悼のことはといたします。

平成23年8月6日
 湖南市長 谷畑 英吾

3 殉国碑



基本情報

所在：石谷町公民館 敷地内
 住所：滋賀県東近江市石谷町508
 (近江鉄道 八日市駅より 車20分)
 連絡先：個人であり記載せず
 建立者：石谷町自治会
 建立年：昭和54年3月

碑文

【表】

殉国碑

【左側面】

昭和五十四年三月建之

【裏】

(故人名)

経緯

終戦直前の昭和20年7月30日、永源寺町（現在の東近江市石谷町）で3歳と8歳の兄弟がアメリカ軍の戦闘機による機銃掃射により亡くなった。この殉国碑には二人の少年の名前が含まれている。

出典：しがけんバーチャル平和祈念館 ホームページより